

権利

を^{きばん}基盤としたアプローチで

尊重

人権

のぞみ

家族のあゆみ

理解

成長の軌跡^{きせき}

ねぎらい

チカラ探し

物語

「がんばり、知ってます」

つながり
積みあげ

「こんな工夫をされてるんですね」

いっしょに記録をつくっていく

「こんな状況のなかでも

読むと元気になる

希望

のりきってこられたんですね」

感動

のぞみや意見が生まれるまで支える

「聞いてますよ」

「見てますよ」

家族に^{ばんそう}伴走する



こども家庭庁
サポートプランガイドラインに準拠

普段の子育て支援の面接でも使えます

そのための、新しい視点で作られた、

「サポートプラン作成支援キット」です

2025 年 5 月

制作 長沼葉月（東京都立大学）+ NPO 法人ふるすあるは

PDF ファイル A4 サイズ全 12 ページ β 版を無償提供しています・要申込



《ニーズ》からのアプローチとはなにがちがうのでしょうか？

ニーズからだ

「困った / 助けて」が言える人、一定のニーズがある人しか、支援を受けられません。制度やサービスの提供でニーズを充足することに主眼が置かれがちです。ニーズが一時的に充足されると、支援が途切れてしまいます。

権利からだ

ニーズが不明瞭でも、人権の実現を保障する観点で支援を行います。公的な制度だけではなく、かぞくの資源、インフォーマルな資源も活用し、できることが広がります。

ニーズからだ

困りごとにフォーカスする面接は、話せば話すほど、自分や家族がダメで無力な人間と感じたり、情けないみじめな気持ちになってしまうことがあります。

困難	課題	問題 問題解決	自分や家族の できていないところ、ダメなところ ...

権利からだ

こういう希望があって、この部分は手伝ってほしいというストーリーで話ができます。会話を通じて、自分たちがいかに、自分らしく生きることに取り組んできたかをふりかえりながら、それを支援者が応援することができます。

かぞくも支援者も元気になる



子どもの安全が守られていない状況でも使えるのでしょうか？

予防的に、早い段階からポジティブに家族にかかわり、関係をつくるためのツールです。子どもの安全が守られていないときなど、専門職が安全を見立てることが最優先という状況では、このツールだけでは不十分（法的にも）と考えられます。既存のアセスメントツールを活用し、状況にあわせて併用をご検討ください。

※困難感の強い家族であっても、これまでどんなふうにながらってきたのか、どんな強みがあって、どう耐えしのんできたのかを話しあい、「この人（支援者）は、しっかり聞いてくれる人なんだな」と思ってもらえる関係ができると、本当の困りごとを隠さずに話してもらいやすくなります。

最初は、普段の相談ケースの、話し合いのツールとして試してみるのもよいと思います。使えそうな実感があれば、サポートプランが必要な方へ導入ください。



目次

- 1 表紙
- 2 今日 はなしたいこと／わたし・かぞくの応援団
- 3 わたしののぞみ（A パターン）
- 4 わたしがやりたいこと、手伝ってほしいこと／応援プラン／署名欄
- 5 ふりかえり
- 6 利用できるサポート
- 7 フリーシート
- 8,9 わたしののぞみ（B パターン：リスト入り）
- 10,11,12 わたしののぞみ（C パターン：切り取れるカード）

1～6 ページを基本セットとし、7～12 ページはアレンジ用の補助資料となっています。

シートは、相談のたびに書き足したり、ファイルに追加していくような使い方を想定しています。

保護者と子どもののぞみを、同じシートのなかで書くことができるスタイルです。

ピンクが保護者、緑が子ども用です。別々に聞く場合は、別のシートに書いてもよいです。

子どもだけが来所された場合でも、年齢や状況に応じて活用することが可能です。

QR からとべるサイト（子ども情報ステーション by ぷるすあるは）に使い方ガイドを公開しています。

[illegible]